No.2551

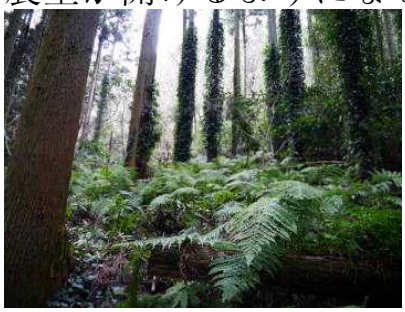
山深い房総核心部を訪ねる

石謝太郎・高宕山

実施日　2012年2月5日（日）
天　候　薄曇り
リーダー　涌井　良明
参加者　若村貴世子、若村勝昭、一柳昭、山口俊三、涌井良明、鈴木政三、小村井好江、渋谷京子、伊藤久雄、関塚七海、宮下良之、松丸恵美子、矢作多恵子　計13名
費　用　JRﾎﾘﾃﾞｰﾊﾟｽ2,300円 ﾀｸｼｰ1,600円 ﾊﾞｽ1,000円
タイム　木更津駅(8:49~9:00ﾀｸｼｰ)植畑上郷BS(9:30~9:40)高宕ﾄﾝﾈﾙ登山口(10:20~1030)石謝太郎(10:50)高宕山(11:54~12:35昼食)八良塚分岐(13:20)奥畑登山口(13:44~13:50)下ノ台BS(14:22~1436)木更津駅(15:30~15:48)
データ　行動時間4時間42分
積算距離11.0km
総上昇量522m
移動平均速度3.3km/h

やや頼りないタクシーを降りたのはそれでも予定していた植畑上郷BSだったのでやれやれ。そのまま少し進み分岐に立つ石謝太郎の導標に従う、時々車も通るが山間へ向かう道である。所々に関東ふれあいの道の案内板も立てられている。

1時間弱で高宕第一ﾄﾝﾈﾙ脇の登山口に着く。ﾄﾝﾈﾙは通行止めでその先道は行き止まりとガイドにはあった、税金で作ったであろうこれは何のためなのでしょう？登山口からはあまり手の入れられていない階段から登る、尤も道は良く踏まれておりﾄﾝﾈﾙ手前の駐車ｽﾍﾟｰｽにも車は多かった。シダの繁茂が美しい森を抜け左に展望が開けるようになると、石謝太郎の展望台に出る。前方も開け八良塚方面の山稜が眺められる。



平坦な道となり、少しづつ下り気味に尾根を辿る、初夏には緑とツツジが美しい広葉樹の道、とガイド本にあった。道は石謝太郎から左旋回するように進み、振り返ると岩の三角形のような石謝太郎が望めた。

単調な道を進むと石の仁王像と狛犬に迎えられる、高宕観音である。急で長い階段の奥に高宕観音の社が巨大な一枚岩に守られるように建っている。年代を感じるが山中にこれだけ立派な建造物を建てる先人の意気込みに敬服せざるを得ない感じである。岩をくり貫いた階段を登り僅かで山頂と下山ルートの分岐に出る。山頂へはロープ下がる小さい岩場と梯子を登り、展望の開けた山頂直下の道を回り込んで梯子を登ると狭い山頂に出た。

祠が鎮座する狭い頂であるが、展望は申し分ない。房総半島の中央部だけに複雑な山並がぐるりと広がっている。特異な姿を主張するように屹立しているのは伊予ケ岳だろうか？また、遥かに東京湾の貨物船も望めるが、残念ながら富士の姿はカスミの中である。風もなく我々だけの頂だったので、昼食をゆっくりとれたのはうれしかった。証拠？写真も撮って下山にかかる。

山頂部下の分岐まで戻り、下ノ台BS方面へ入る、入口はやや荒れ気味の湿地帯だがその後は小さな登降の繰り返しが八郎塚分岐辺りまで続く、山低く深くないが見通しはなく、沢も小さいが急峻なために奥多摩辺りの山中を歩く雰囲気もある。やがて下方に明るさが見えると直ぐに奥畑登山口に降り立った。先の国道を左に進みﾄﾝﾈﾙを抜け緩く下った所の下ノ台BSで歩き止めになった。観光ﾊﾞｽ仕様の豪華な路線ﾊﾞｽで木更津駅で解散。

房総の山を味わっていただけましたか？
おりを見てまた行きましょう.

（記＆写真・涌井　良明）